



こいのぼりのお話

鯉は古くから立身出世の象徴とされてきました。中国の故事・伝説から「黄河の上流にある龍門の急流をさかのぼることができた鯉は、龍になって天をかける」と言われ、出世のたとえに用いられるようになりました。日本において鯉が縁起物とされたのは、江戸時代中期といわれています。五色の吹流しは、幼子の無事な成長を願って「魔よけ」の意味で飾られるようになりまし

参照
～鯉のぼりと五色の吹流しの話～



GW気をつけてお過ごしください

ゴールデンウィークなどで楽しい計画を立てておられるご家庭もあるかと思いますが、十分な感染対策を取りながら、お過ごしいただきますようお願いいたします。



赤ちゃんの時から関わりが今に繋がっているのです！

4月16日、県内のコロナ感染者は、高止まりではありませんでしたが、「園内に感染者がいない」ということから安佐動物園まで親子遠足に行ってきました。親子で動物を見たり、保育者が用意したクイズを考えたりしながら、年少さんにとっては、ちょっとり遠い西園でしたが、みんなよく歩きました。時々「抱っこして」という声も聞かれたのですが、保護者の方に「遠足だから歩くのよ。」と言われると、なぜか歩いていました。短い時間でしたが、ほのぼのとした和やかなひと時でした。私たちがのんびり楽しんでいる時に、西区の保育園では、「5歳の園児が一人で園から出てしまい、その後亡くなって発見された」というとても悲しい事が起こっていました。昨年も「バスの中で園児が亡くなる」という事故がありました。亡くなったお子さん、保護者のことを思うと、とても辛く、悲しく、いたたまれない気持ちです。当事者である保育者は、「どうしてあの時、確認しなかったんだろう」「どうしてあの場所を見過ごしてしまったんだろう」など、悔やみきれない事でしょう。これらは決して他人ごとではありません。すいこうは新園舎だから大丈夫という思いではなく、新園舎だから気が付いていないところはないか園内をそれぞれの職員がチェックし、「赤ちゃんにとっては、この段差は危険だ」とか「年長さんだったら、ここは乗り越えるよ」など、確認しました。子どもたちが、めだかの動きを楽しんでいるピオトープも、「落ちてしまうことがあっても落ちたことに気付かないことがあってはならない」そのためにはどうしたらよいかなど話しました。子どもだけで園庭に出ることはないので、片付けなどで注意が十分できないときが危険です。こういった安全対策がとれるか業者さんと相談することにしていきます。子どもたちは、保護者の皆さんの大切な宝物です。決して失うことがないよう、その時々を漫然と過ごさず、意識をもって子どもたちと過ごしていかなければと思っています。

さて、新園舎の園庭は、日当たりもよく、赤ちゃんから年長さんまで、ちょっとの時間を見つけては、外あそびを楽しんでいます。先日、園庭で遊んでいる子どもたちの様子を見てみると、年長のY君がお部屋から虫の図鑑を持ち

だし、急いで広げて見えています。パラパラとページをめくり、目当ての物を見つけたのでしょ。安心した表情で図鑑を閉じてあそび始めました。「何を探していたの」って聞くと、園舎2階の壁に止まっている蛾を指さし、「なんていう虫かなと思って図鑑で探した。」と言って「これよ。」と、ページを開いて教えてくれました。大きな図鑑を持ちだす前には、数人のお友だちと、ポケット図鑑で探し、見つからないから大きな図鑑で探そうと相談したのでした。Y君たちのなに気ない行動のようですが、「あれはなんだ」と不思議に思う気持ち、わからないから知りたいと思う気持ち、仲間と話し合っ、「大きい図鑑ならわかるんじゃないか」というコミュニケーション力、そして、図鑑を持ちだす行動力など、乳幼児期に育んでおきたいたくさんの力が潜んでいるのです。これらの力は、年長さんになったから自然に身についた力ではありません。いつも園だよりなどでお伝えしているように、小さい時の関わりが何より大切なのです。こあら組の赤ちゃんでも、「あー、あー」と喃語を発し、見えるものを指差しして、自分の思いを一生懸命伝えようとしています。その指先の方向を見ながら「お花が見えたね」など思いを察し、言葉を添えてあげると、赤ちゃんは満面の笑みを見せてくれます。赤ちゃんの時から関わり方が、幼児さんになった時の姿に大きく影響しているのです。小さい時にしっかり関わってもらい、「そう。」「よかったね。」などと、気持ちを汲み取るような言葉と一緒に、周りの大人の暖かなまなざしや優しい関わりがあって、大きくなるにしたいが、友だちと助け合ったり、時には喧嘩をしたりしながら、お互いを思いやる仲間が増えていくのです。そういった環境の中で、安心して生活することで、これらの力が少しずつ芽を出し、年長さん、そして一年生になるころには、「文部科学省が示す小学校入学までの幼児期に育んでほしい10の姿」をもった子どもへと成長してくのではと思っています。

5月はさわやかな風が吹き、過ごしやすい季節です。園庭の隅っこで、空を押し上げるように咲いているハナミズキを見ながら、穏やかな気候の中でお外あそびをしっかりと楽しみたいと思います。

園長

子育てメッセージ

「見ててね～」
「うん、みてるよ！」

子どもは、お父さんやお母さんに、いつでも自分を見ていてほしいもの。でも、忙しい毎日、子どもの「見ててね～」という言葉に、つい「今は忙しいの」と言ってしまいがちです。うん、みてるよ」と、言葉を返すだけで子どもは安心するのです。

全国私立保育園協会



健康診断

内科・眼科・耳鼻科・歯科の健康診断は、感染対策を講じながら行います。日程については、行事予定表をご覧ください。

